

教育経済建設常任委員会行政視察報告書

荻原久雄

○山形県南陽市

シェルターなんようホール（南陽市文化会館）について

【所見】

このホールは、「最大の木造コンサートホール」としてギネス世界記録に認定されている。南陽の森から取れた杉材を、国内最先端の耐火木材技術を取り入れた集成材を採用し、火災等の災害においても建物が倒壊せずに自立し続けられる性能を持った木造軸組工法の耐火建築物である。

それゆえ、総事業費66億8,000万円のうち、森林整備促進・林業等再生事業費補助金16億800万円、元気臨時交付金13億1,100万円等を受け、財源内訳は一般財源14億5,000万円、基金積立金8億6,000万円、地方債10億8,000万円となっており、約半分を補助金で賄っている。さらに、林業における雇用の創出は1万9,489人、経済効果は13億8,000万円と地域にも還元している事業である。

同文化会館は大ホール1,403席、小ホール500人収容、交流ラウンジ、展示ギャラリー、会議室、キッチンスタジオなど16種類の施設が設備されている。大ホールのメリットは地元の吉野石こうボードを使用し、木造ならではの残響時間、遮音性能など音響が優れているとのことである。興業が成功している理由として、ラジオ番組である有名ミュージシャンがPRしてくれたこと、国内の名立たる人材7名で専門家委員会を発足し、舞台を利用する立場で計画したことが挙げられる。また、興行での使用料は徴収しておらず、年間の維持管理費1億2,000万円に対し、収入は約5,000万円であり、市の持ち出しは7,000万円ほどであったとのことである。

市民からの反応はおおむね良好でクレームもあまりないとのことであり、建設に至る経緯がそうさせていると考える。旧市民会館は、昭和43年に建築された築45年の老朽化した客席716席の建物で、バリアフリー未対応、駐車場が狭く、耐震性も不安視されていた。平成8年に建てかえを訴える1万1,000人(市民3人に1人)の署名、そして市議会に請願も提出され採択された。さらに平成18年から取り組んでいた中学校を統合し、学校耐震化率100%を達成した。平成23年に発生した東日本大震災も影響しているとの説明があった。

足利市民会館も南陽市の旧市民会館と同時期の建物である。また、足利市民は文化の殿堂として誇りを持っている。文化のまちとしてふさわしい市民会館を低

予算で建設する研究のために、大変有意義な視察であった。

○山形県米沢市

P F I 制度による市営住宅建替等事業について

【所 見】

老朽化した公営住宅塩井町団地の建てかえ事業に、民間の資金調達能力、経営能力及び技術能力を活用する P F I 制度を導入した。建てかえに対する解体撤去、設計建設、その後事業期間は20年とし、維持管理業務を実施する B T O 方式を採用した。1号館40戸、2号館30戸、3号館38戸で1LDK、2DK、3DKを含め、合計108戸の世帯が入居している。

入札は設計企業、建設企業、維持管理企業で構成され、入札参加グループは1グループだった。地元企業に加点される採点で、地元企業に有利になったということである。

P F I 制度導入により、地域企業の事業機会、収益の発生、住民が受けるサービスの向上、公共の事務負担軽減のメリットがあった。しかしながら、民間業者選定等々の手続きが複雑で時間を要することや、公営住宅が住宅の仕様として高い水準でないためコスト縮減に限界があること、また、維持管理、運営部分が少なく事業者のノウハウを生かす部分が少ないなど、デメリットもあったとのことである。

説明後、現地を見学した。住居地区の一番田園に近い場所に建設されている。学校も近く、駐輪場など子育ての世帯にも配慮されており、エレベーターも整備されていた。冬は積雪が1メートルほどあり、全ての部分で考慮されていたと考える。また、集会所も30畳ほどの畳敷きで広く清潔に保たれている。全戸入居中で室内を見ることができなかったが、満室がこの事業の成功を証明していると考ええる。

足利市は、公共施設老朽化に伴う統廃合、建てかえが必要不可欠である。それぞれの特性に合った方式で、民間を活用した P F I 制度などを利用し、市民への負担、コスト削減を追求して今回の視察を反映させたいと考える。